

小布施まちづくりボイス

小布施まちづくり委員会
 facebook ページ
<https://m.facebook.com/439763846093629>



会長就任あいさつ

一人の小さな声を、

公の声に、

公のしくみに

小布施まちづくり委員会

会長 高野薫



はじめまして、高野薫です。この度ご縁があり、小布施まちづくり委員会の会長を務めさせていただきますこととなりました。どうぞ、よろしくお願ひいたします。生まれも育ちも小布施町、その昔、横町にあったお産婆さん宅で産湯を使い、つすみ保育園に友達と徒歩通園し、栗が丘小学校の築山で遊び、小布施中学校を卒業しました。

小学校、中学校の校歌は今も歌うことができます。校歌に歌われている原風景や思いを大人になって改めてかみしめてみると、子どもたちの健やかな成長への祈りが込められており、先人の思いに感謝の気持ちがわきます。

小布施まちづくり委員会には、コミュニティスクール導入のための提言(2014年5月27日)から参加しています。

日常の生活を送る中で困ることや、「こんな風になつたらいいのに」と思うことを、誰かにお願いするのでなく、議論し、町のしくみ(提言)を使って、公のものに解決していく場が小布施まちづくり委員会です。

小布施まちづくり委員会も発足から今年で15年目となりました。この間に7つの提言を出し、町と協働し、実践されてきています。それらは皆、初めは小さな声でした。5人以上の仲間が集まれば1つ

の部会が成立します。部会は1つのテーマでも成り立ちます。仲間を集め、議論をし、またより多くの声を集めることにより、町に対して「こうして欲しい」という提言を出すことができます。提言をすることによって、初めは個人の意見だったものが、公の意見となり、公のしくみになります。これから新しい部会がどんどんできると良いなあと思っております。

また、今年度から Ueebook の発信をより充実させ、町民の皆さんが小布施まちづくり委員会の情報を見やすく、受け取りやすいようにしていく所存です。

また小布施まちづくり委員会では、随時新委員を募集しております。多くの町民の方々のご参加をお待ちしております。

小布施まちづくり委員会 2022年度 事業計画

部会名 事業内容

- 安全**
 - 防災アプリやインターネット・YouTube活用研究
 - 楽しい防災・避難・資料作成
 - おぶせ住民防災講座の開催
 - 防災情報マップ作成と空き家防災見回り
 - 六斎市出展 寸劇「AEDで生還」
 - 防災講演動画のYouTube掲載
 - 小布施町内防災団体との懇談会
- 環境**
 - 小学校4年生向け土作り・丸なす栽培・食育講座
 - 小学校5年生向け落ち葉堆肥作り講座
 - 生ごみ堆肥循環システム構築
 - 食育上映会&講演会
- 交流**
 - お絵かき教室
 - 多文化交流
 - 他市との交流視察
- 共育**
 - おぶせ口頭詩の収集
 - 食育講演会の開催
 - 子どもの生活リズムの取り組み支援
 - 脳科学リーフレット普及の取り組み
 - 妊娠前から継続した小布施子育て支援の検討
- 福祉**
 - 「自分史・未来日記」の利用・購入促進
 - 「自分史・未来日記」の増刷・製本(必要に応じ)



生ごみ堆肥を活用した土から、今年も元気な小布施丸なすを収穫。

部会だより 1

町の小学生と学び楽しむ 土づくり・堆肥づくり・野菜づくり

環境を考える部会

部会長 工藤陽輔

約10年続く 小学校の土づくり

環境を考える部会では、可燃ごみとして回収される生ごみの低減を主な目的に、堆肥・土づくり、そして微生物たつぷりの土から野菜を育てる活動をしてきました。現在は土づくりや野菜栽培のウエイトが大きくなっています。部会内で「環境を考える部会」の名称変更も検討しましたが、根底にこの生ごみを減らす活動があるため、改称は見送りしました。

活動の柱に、町の小学4年生向けに行っている「生ごみリサイクル土づくり&小布施丸なすの栽培」があります。この活動は10年近く続いており、小学校の教育プログラムに組み込まれるようにもなりました。今年も7月末には立派な小布施丸なすの収穫ができました。子どもたちの問題意識も年々高まっているようで、資源となる生ごみが、通常は可燃ごみとして回収・焼却されていることを伝えると、「それはなんとかしらない」と前向きな声も聞こえてきます。最初は土に触れることができない子たちも、次第に慣れていきます。意外に多いのが子どもたちの野菜嫌いですが、小布施丸なすの栽培・収穫体験を通じて、なす嫌いを克服する子もいます。私自身も農業をやっており、この毎年の活動は原点に戻る絶好の機会となっています。この活動は永続的にやっていきたいと部会内で話しており、この体験をした子どもたちがいつか我々と一緒に活動をする日も遠くはないのではないかと思います。

一緒に活動しませんか!

小布施まちづくり委員会では、随時委員を募集中。まちづくりに関心のある16歳以上の町民や、町民1人以上の推薦がある町外の方も、ご参加可能です。どうぞお気軽に!

<お問合せ・お申込み>

小布施まちづくり委員会事務局(小布施町企画財政課内)
 TEL:026-214-9102 FAX:026-247-3113
 E-mail:kouryuu@town.obuse.nagano.jp

落ち葉を 焼却から堆肥化へ

自然豊かな小布施でも、落ち葉などが可燃ごみとして捨てられていくと知ったときには、衝撃を受けました。小学校でも、大量の落ち葉を業者に委託して捨てているそうです。その落ち葉を利用して



今年度から5年生と新たに始めた落ち葉堆肥づくり。

何かできないか? と思い、今年から5年3組の子どもたちと試験的に落ち葉堆肥づくりを始めました。5年生は前年に生ごみリサイクルを経験しており、堆肥づくりの基礎はあります。土づくりの発原型でもあり、今後も良い形で継続できたらと思います。3カ月後には、良質な堆肥が完成しました。その堆肥を6年生の菊栽培や校庭の花栽培に利用できれば、良い循環システムができあがります。

このように、当部会では小学生と環境や食、農業等を考える活動を中心にしています。小布施まちづくり委員会のテーマでもある「協働」を意識して、共育を考える部会とも共に活動を始め、幅も広がり、とても良い雰囲気です。ゼロウェイストチームを中心に、町とも大きな循環(町全体として)システムを共に検討し実現していけたらと思っています。

部会だより 2

想像力いっぱい楽しく合作 「カツパと遊ぼう!」

交流を考える部会

部会長 松島莉央

交流を考える部会では8月28日(日)、まちとしてテラスの多目的室をお借りしてお絵かき教室を行いました。講師としてイラスト



レーター・絵本作家の藤岡牧夫さんをお呼びし、「カツパと遊ぼう!」をテーマに想像を膨らませ、絵を描き、切って、貼りつけました。

子どもたちは色鮮やかなお魚やくらげを泳がせたり、水の上に見える木にリンゴやいろいろな果物を貼りつけたりと、思いおもいに描いていました。「カツパは何が好きかな?」「こんなのはどう?」と相談して描く子や、「一緒に描こう!」と同じものを仲良く描く子、「届かない!」「この辺りに貼ればいい?」と協力する子など様々な姿があり、それぞれに創作を楽しみました。

3 自分史&未来日記

「自分史&未来日記」を書いて 充実した人生を!

残りの人生をより豊かに

福祉を考える部会ではエンディングノート... 結果的に自分史とエンディングノートを連結した内容にまとめました。

「一般にエンディングノートは「自分の人生の終末について記したノート」と説明され、葬儀会社や墓石業者のサイトでは自分の希望する葬儀の方法を記入するものなどが無料提供されています。

これに対し部会では、亡くなった後のことを考えるよりも、いかに残りの人生を豊かにできるかが本日のエンディングノートなのではと考へ、名称も「未来日記」としました。

成人式・結婚・出産・退職...好きなタイミングで書き始めて

書き始めるタイミングは、いつでもOK。退職してからでも、出産・成人式・結婚などのきつかけでもよいと思います。

今制作した自分史&未来日記には、巻にある自分史やエンディング



ノートに記されている項目のほとんどが網羅されています。自分の書きたい項目をほとんど書き記していくだけでよいです。

「何を書いたらいいかわからない」という場合は、アルバムを広げてみてください。書き出すきっかけが見えてくるはずですよ。

コロナ禍で人との交流や旅行などできず自粛生活が続きますが、こんな時こそ過去を振り返り未来を夢見る時間を持つてはいかがでしょう。

書き方勉強会開催予定

7月の町報と一緒に「自分史&未来日記」書き方勉強会開催のお知らせをお配りしました。昨年と一昨年には、企画していた講演会がコロナの感染拡大により中止に。今年こそは多くの方に自分史や未来日記をお



「自分史&未来日記」の書き方勉強会を今後も計画していきます。気軽に思いを語り合しましょう。

4 脳

「早寝・早起き・朝ごはん」

共育を考える部会

部会長 元田和行

共育を考える部会では、脳科学パフレットの普及に加え、小布施学園コミュニティ・スクールの活動を

通して「早寝・早起き・朝ごはん」の定着を進めています。これは、幼児期からの十分な愛着や規則正しい生活による脳の発達、人間の土台

づくりに大きく影響していることが明らかになってきたからです。

更新された脳科学パンフレットは、脳の発達や保護者との触れ合いの重要性についてわかりやすく説明しており、エンゼルランドセンター等で差し上げています。



「早寝・早起き・朝ごはん」の定着に向けて、生活リズムの重要性や実践の工夫、ヒントを今後、保護者の皆さんに届ける計画をしています。この活動により、小布施の子どもたち一人ひとりの豊かな学びの実現を応援していきます。

5 地域の防災と青パト活動

防災アプリの学びも

2022年度の事業計画は、地域の防災と児童・生徒の下校時に青色パトロールを行うことなどです。

台風19号の災害を受けた千曲川や松川の洪水・大気温暖化による気候変動・頻発する地震対策からの備えや防災・避難・復興について、近

年防災アプリの活用が望まれるようになりました。長野県や市町村で作成した地域のアプリは非常時や備えの情報が豊富に編纂されています。当部会ではその学習を行って、事態に備える訓練を学び合う計画です。また、児童や生徒の下校時間帯に

子どもを中心とした「つなぐ」図書館づくり

講師 小布施町立図書館「まちとよテラス」館長 志賀アリカさん

町の「顔」になれる図書館に

まちとよテラス(以下、テラス)の館長就任までに国際協力、教育、コンサルティングと多彩な分野に携わってきた志賀アリカさん。「根底には『つなぐ』という一貫したテーマがありま

「歓迎されている」と感じられる空間づくり



志賀さんは図書館づくりを「情報編集」「空間」「企画」の3つの視点から推進。「情報編集」の環では棚づくりに取り組み、町民のお勧め本に焦点を当てた「押し棚」をはじめ、「5分棚」「積ん棚」などの企画棚を設けてきました。ほか、収蔵本にチケットをラ

と語りまします。「イメージは長崎の出島。文化交流の場、伝統と革新が交わる場であり、『これぞ小布施の図書館』と言えるような、町の「顔」になれる図書館」を目指してきました。

「空間」の視点から大切にしているのが、「子どもを中心としたテラス」。ゲームを入口として本への興味を誘ったり、絵本に題材を得た遊びを仕掛けたら。館内には子どもと本をつなぐアイデアがちりばめられています。また来館者とのコミュニケーションでは、子どもや、幼児を連れてくるお父さん・お母さんに「ここにいていいんだ」「歓迎されている」と感じてもらえる声かけも工夫しているそうです。

紙薪、ヤギ飼育、移動図書館。次々飛び出す新企画。3つ目の視点は「企画」。古新聞の扱いに苦慮する中で始めた、新聞紙を原料とした「紙薪」作りや、小学校と隣接する立地を生かし、特別支援学級の授業とともに情報を集め学びながら取り組むヤギの飼育など、斬新な企画を立ち上げてきました。今年度はモバイルハウス型の移動図書館作りにも挑戦。設計から製作までをすべて町民とともに進め、完成に漕ぎ着けました。この移動図書館は、必要な場所へ本を届けるだけでなく、希望者への貸出もOK。期間限定の店舗やワークショップ会場など、多様な用途に利用可能です。



夜のテラスの活用や、町民参加による蔵書の整理・修理、小中学校との連携など、新事業案も続々。「つなぐ」を重視する志賀さんらしい方法で人々の接点を増やしなが、「町とともに変わり続けるテラスでありたい」と講演を結びました。より魅力的な「交流と創造を楽しむ文化の拠点」づくりに向け、私たち町民一人ひとりの出番も増えていきそうです。

町中くまなく防犯の抑止パトロールを15年実施しています。8月から防犯標語の歌「いかのおすし」の曲を変更しました。



移動図書館完成イメージ (画像提供: 伊藤一生)



講演の詳細は、こちらのQRコードから。